

収益性の高いメロン経営体の育成

鹿行農林事務所経営・普及部門

銚田市は全国一位の生産量を誇るメロン産地ですが、経営体の収益性向上には高品質果実生産による単価の確保が重要になります。しかし近年、春メロンではネット発生期の天候不順による縦ネットの大割れ（ヒルネット）や6月の高温による萎れ、アールス系メロンでは夏季高温による果実内発芽が問題となっております。これらの問題解決に向け、ハウス内環境改善や安定生産可能な品種選定等の対策技術の検討に取り組みました。

「イバラキング」の外観品質向上

「イバラキング」では、ネット発生期における曇天時の影響で発生するヒルネットが問題となります。これはハウス内の高湿度が原因の一つとされています。湿度低減対策としてホットガンの効果を検討したところ、対照の無使用ハウスでは湿度が90%程度で推移したのに対し、使用ハウスでは70～85%となり、秀優品率が25%向上し、ホットガンによる湿度低減とこれに伴うヒルネットの発生軽減の可能性を確認できました。この結果を生産者に情報提供し、関心のある方の活用を支援しています。



図1 ヒルネット対策に用いたホットガン



図2 6月収穫向け新品種の栽培状況

春メロンの高温期収穫に適した 新品種導入による安定生産

春メロンでは近年、6月収穫の作型を中心に、高温の影響による萎れや黄化玉の発生が問題となっています。そこで、高温期においても安定生産可能な品種の選定試験の実施と選定品種の安定生産技術の確立を支援しました。その結果、赤肉では県オリジナル系統を含む数系統で継続試作となり、緑肉では選定導入された1品種で栽培マニュアルを作成できました。

アールス系メロンにおける 夏季高温対策技術の検討

アールス系メロンでは、近年の記録的な夏季高温により、果実内発芽の発生が問題となっています。そのための対策技術として、昇温抑制のための遮熱ネットと発芽抑制植物ホルモンの濃度改善が期待できるカリウム追肥の効果を検討しました。その結果、遮熱ネットの有無では果実内発芽の発生に差がある傾向がみられましたが、カリウム追肥の効果は判然としませんでした。果実内発芽の対策は喫緊の課題であるため、引き続き各種技術の効果を検証していく予定です。



図3
遮熱ネットによる果実内
発芽対策